

九州大学新聞記事索引 二

<https://doi.org/10.15017/1498309>

出版情報：九州大学大学史料叢書. 20, 2014-03-31. 九州大学大学文書館
バージョン：
権利関係：

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和32年11月25日	第409号	2	ソ連はなぜ軍縮委を脱退するのか “ソ連はなぜ今度の措置に出たのか?” “ソ連の政治的な狙いはどこにあるか” “核兵器実験禁止と一般軍縮の実現は?”	政治研究会	
昭和32年11月25日	第409号	2	全種目に敗退 冬季イン・カレ	—	
昭和32年11月25日	第409号	2	軍縮をめぐる世界の動き 十一月一日—十一月十九日	—	
昭和32年11月25日	第409号	2	九大三位に終る 九州六大学野球リーグ	—	
昭和32年11月25日	第409号	2	ジュコフ解任問題について 軍令と軍政の二元的対立 根底に軍と党の関係 “強力な軍隊” 作りに党活動奉仕 ジュコフへの崇拜 党の指導性確立	徳本正彦	教養部政治学講師
昭和32年11月25日	第409号	3	ミーク氏の講演を聞いて 恐慌は不可避でない 資本主義に構造的変化	高橋正雄	九州大学経済学部教授
昭和32年11月25日	第409号	3	英国の数少ないマルクス経済学者 ミーク氏の横顔	—	
昭和32年11月25日	第409号	3	一段落した就職をみる 出足ばやで伸び悩み 文四割 理七割 今からも少しずつ 経済学部 法学部 文学部 教育学部 理学部 農学部 工学部	—	
昭和32年11月25日	第409号	3	九大ワイドビジョン 教養部学生像4 受身から脱せない学生 教養部 人格陶冶に寄与しない	—	
昭和32年11月25日	第409号	4	学芸	—	
昭和32年11月25日	第409号	4	物理学の分野にも踏みこむ 構造化学討論会から	神田慶也	九州大学理学部助教授
昭和32年11月25日	第409号	4	演劇は再び私達の身のまわりから創り出さなければならぬ 五大学演劇祭評	—	
昭和32年11月25日	第409号	4	生々しいエネルギーに欠ける 九大美術展	美	
昭和32年11月25日	第409号	4	映画評 『地上』 詩情過多の典型	蜜	
昭和32年11月25日	第409号	4	映画評 『世界は恐怖する』 訴える放射能の恐しさ	Q	
昭和32年11月25日	第409号	4	ブックエンド 純粋な学問への情熱 支えの国境を越えた友愛 『若き日の欧州記』 前田護郎著	L	
昭和32年11月25日	第409号	4	ブックエンド 芸術学に科学的方法論を フロイトの精神分析学を導入 芸術心理学講座第四巻 『芸術と人間』 宮城音弥編	—	
昭和32年11月25日	第409号	4	捕食の必要者八六%	—	
昭和32年11月25日	第409号	4	訂正	—	
昭和32年12月15日	第410号	1	原子戦争 勤務評定 絶対反対を決議 12.6全国各地で集会 提灯デモで市民に呼びかけ 福岡デモ隊、警官ともむ 米領事館に入る、入れぬで	—	
昭和32年12月15日	第410号	1	次期委員長に中村氏(工三) 学友会中執改選さる	—	
昭和32年12月15日	第410号	1	更に強力な平和擁護を 第七回代議員総会・一般方針決る 学友会費四千元に・規約も改正	—	
昭和32年12月15日	第410号	1	江崎教授逝去	—	
昭和32年12月15日	第410号	1	論説 十二・六を顧みて 方針は正しかった 組織の弱さが原因 学生が組織を作る	—	
昭和32年12月15日	第410号	1	論説 ゼミナールを発展させよう	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和32年12月15日	第410号	1	学生運動目的解釈に食違い？ 一般方針論議の対立点 問題となる“中央委員会制”	—	
昭和32年12月15日	第410号	1	盲点	—	
昭和32年12月15日	第410号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和32年12月15日	第410号	2	現代の特質と哲学の動向 “自己疎外”の時代・現代 — 哲学の課題はその除去にある — 現代の運命 “無の体験” 哲学の命題 “疎外”の打破 “自己疎外”論理の展開例 実存哲学は疎外から出発	佐々木一義	九州大学教養部教授
昭和32年12月15日	第410号	2	平和共存へ関心強まる — 『最近の国際情勢と平和』 — 岡倉教授(同大)本学で講演	—	
昭和32年12月15日	第410号	2	『片隅の幸福』への憧れ — 就職の頃を想う	山川丈平	九州大学教養部助教授
昭和32年12月15日	第410号	2	CINEMA 『戦場にかける橋』コロビア映画	玲	
昭和32年12月15日	第410号	2	CINEMA 『女であること』東宝映画	玲	
昭和32年12月15日	第410号	2	コール・アカデミー定期演奏会 一月十四日電気ホールで	—	
昭和33年1月25日	第411号	1	学生の意識の反映を 中村委員長と会見 課題の中に十分生かす 『客観的』に正しいだけではダメ 単位自治会 性格を捉えることが必要	—	
昭和33年1月25日	第411号	1	学内短信 [入学試験]	—	
昭和33年1月25日	第411号	1	学長 新年の計画を語る 施設拡充に努力したい 予算なしには増員出来ぬ	—	
昭和33年1月25日	第411号	1	生産機械工学科を新設 来年度から新入生募集	—	
昭和33年1月25日	第411号	1	卒業生送別会 三月二十二日・電気ホール	—	
昭和33年1月25日	第411号	1	九大人事 [異動]	—	
昭和33年1月25日	第411号	1	盲点	—	
昭和33年1月25日	第411号	1	八中委後の運動の再評価が必要 学友会方針をみて	住江毅	経済学部四年
昭和33年1月25日	第411号	2	論説 単位自治会再建をめぐる	—	
昭和33年1月25日	第411号	2	世論 NATOをゆさぶる 後退させられるダレス外交	政治研究会	
昭和33年1月25日	第411号	2	厚生総部 生協 課税対象となる 法人税法を一部改正	—	
昭和33年1月25日	第411号	2	世界の動き 12月1日—1月16日	—	
昭和33年1月25日	第411号	2	四年案と五年案が対立 大学制度問題公聴会	—	
昭和33年1月25日	第411号	2	『春の讃歌』に学生歌歌詞当選作	—	
昭和33年1月25日	第411号	2	一人でデモすることは難しい 学生と政治 学生を知的指導者と見ぬ英国	P・C・M・ガードナー 柴田稔彦・訳	九州大学文学部講師 福岡女子大学英文科講師
昭和33年1月25日	第411号	3	九大ガン研の現状をみる 医化学と病理を行ったりきたり まだきまらない教授陣 望まれる協同研究体制 阪大 全学的な視野で成功	B	
昭和33年1月25日	第411号	3	九大ワイドビジョン5 九大の施設 雨降れば泥・泥・泥… 教室に入れば貧乏ぶるい	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年1月25日	第411号	3	学友会費値上げ 現状では止むをえぬ 逆に軽率という声も 解説	美	
昭和33年1月25日	第411号	3	故江崎教授を偲ぶ すぐれた体系化の才能 宝塚スターの写真も分類 江崎教授の横顔	内田恵太郎	九州大学農学部教授
昭和33年1月25日	第411号	3	故江崎教授を偲ぶ 南洋の昆虫相を解明 生涯を昆虫分類学に尽す 江崎教授の業績	安松京三	九州大学農学部助教授
昭和33年1月25日	第411号	3	学園論潮	—	
昭和33年1月25日	第411号	4	伝統への反抗1 芸術論シリーズ 『0』の地点に立つて そこから絵画を発芽させよ 美術 現代の職人画家 原始へ復帰せよ 内部を生で出せば作家は開拓者だ	高橋満	青年美術展協会会員
昭和33年1月25日	第411号	4	書評(一) 中山書店 学習の診断と治療 欠陥者を人間としてみる 『アメリカの研究』偏重の視野	関計夫	九州大学教育学部教授
昭和33年1月25日	第411号	4	書評(二) 内田良彦編 古典経済学研究 上巻 優れた経済理論の展開 スミスからスチュアートへの繋りに問題	高木暢哉	九州大学経済学部教授
昭和33年1月25日	第411号	4	貝の歌	金関丈夫	九州大学医学部教授
昭和33年1月25日	第411号	4	雑誌評 九大文学26号	雲	
昭和33年1月25日	第411号	4	雑誌評 展望第2号	筆	
昭和33年1月25日	第411号	4	竹内教授(文学部)“朝日賞”贈らる — 『平安遺文』の完成で—	—	
昭和33年1月25日	第411号	4	不言の研究者 アイロニカルな面も	瀬野精一郎	国史学研究教室助手
昭和33年1月25日	第411号	4	よい出来“柳川風物詩” コールアカデミー定期演奏会	三	
昭和33年2月15日	第412号	1	学生運動をどう見るか 編集部の調査結果まとまる 全学連方針 一部賛成74%全面的賛成は15% スト、問題により必要59% 大きい自治委とのギャップ 全学連について その行動は 自治会について 政治的関心	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	九大人事 [異動]	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	“平和共存”の促進へ 全学連十五中委活動方針 三月一日に国際統一行動を	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	総額四百六万余円 33年度学友会予算大綱決る	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	四月上旬現地で植樹祭 小畑記念植林計画	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	学内短信 ノーベル賞のオイラー博士本学で講演	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	学内短信 購買部にレジスター購入	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	学内短信 厚生部委員選挙当選者	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	盲点	—	
昭和33年2月15日	第412号	1	第一回 松原賞小説募集	九州大学新聞部	
昭和33年2月15日	第412号	2	論説 もっと学生をみよ 15中委“学生の統一”の評価をめぐって	—	
昭和33年2月15日	第412号	2	福岡県知事リコール問題をみる 政治制度から民主政治を豊かにする難しさ 現代日本の縮図	徳本正彦	九州大学教養部講師

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年2月15日	第412号	2	福岡県知事リコール問題をみる 法律から 自治庁の解釈をめぐって 形式的要件を余りにも重視 厳格な自治庁の解釈 リコール派の異議署名生かす解釈を	手島孝	九州大学法学部助教授
昭和33年2月15日	第412号	2	結核と就職問題 根強い会社側の偏見 結核懇談会開かる	—	
昭和33年2月15日	第412号	2	住江氏への反論 八中委の具体化過程に問題 自治会のとらえ方に弱点 実力以上の力を必要とした情勢	八雲圭生	九州大学法学部二年
昭和33年2月15日	第412号	3	就職戦線の記 まずは生存の場を 一いかに生きるかよりも 戦線? とんでもない “生存” を求めて ただ “勝つ” だけ やはり “戦線” だ	木島康之	九州大学文学部中文科四年
昭和33年2月15日	第412号	3	学芸 沖繩のこのごろ 静かにしかし堂々と抗議に集まる五万の人々 “日本復帰” “貧しさ” “若い世代”	高田源清	九州大学法学部教授
昭和33年2月15日	第412号	3	100人でゼミする悲劇 大学生生活の今と昔 旧制高校と新制大学 旧制高校制度 建物や教授の不足	湯村武人	九州大学経済学部助教授
昭和33年2月15日	第412号	3	人間歪める入試地獄 社会問題として追求 清水義弘著『試験』 入学難の時代 浪人の進出 選抜以前の選抜	上野和夫	文学部四年生
昭和33年2月15日	第412号	3	CINEMA 格調の高い佳作『崖』	玲	
昭和33年2月15日	第412号	3	謙虚な学究の回顧談 生物学の並木路 内田亨著	N	
昭和33年2月15日	第412号	3	学園論潮	—	
昭和33年2月15日	第412号	4	特集 受験生諸君へ	[編集部]	
昭和33年2月15日	第412号	4	特集 受験生諸君へ 高校生からみた大学 自由の学園を期待 個性と自由なき生活の反動	木村清	
昭和33年2月15日	第412号	4	特集 受験生諸君へ 理工系の志望者増加 十日入学願書締切る	—	
昭和33年2月15日	第412号	4	特集 受験生諸君へ 試験は箱崎、六本松で 三月十八日 身体検査	—	
昭和33年2月15日	第412号	4	特集 受験生諸君へ 自ら『学び』『問う』場内側からみた大学 S君の場合 G君の場合 学問の場、大学	—	
昭和33年2月15日	第412号	4	特集 受験生諸君へ 試験場案内	—	
昭和33年2月15日	第412号	4	特集 受験生諸君へ 電気科七・七倍に 工学部各学科別の志望者数	—	
昭和33年2月15日	第412号	4	大学も今や真空ではない 考えてほしい『社会』と『目標』	川口武彦	九州大学教養部助教授
昭和33年3月25日	第413号	1	学園を去る九教授 九大の発展に貢献 伊藤徳之助教授(理学部) 小島均教授(農学部) 沢田藤一郎教授(医学部) 瀬尾愛三郎教授(医学部) 森耕二郎教授(経済学部) 山崎何恵教授(農学部) 和田正雄教授(工学部)	—	
昭和33年3月25日	第413号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和33年3月25日	第413号	1	木原教授逝去 産婦人科学界の権威	—	
昭和33年3月25日	第413号	1	医学部長に遠城寺教授	—	
昭和33年3月25日	第413号	1	第一回松原賞小説を募る	九州大学新聞	
昭和33年3月25日	第413号	1	盲点	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年3月25日	第413号	1	『アンチゴーン』を上演 福岡地区大学合同公演で	—	
昭和33年3月25日	第413号	1	論説 九大祭を全学のものに	—	
昭和33年3月25日	第413号	1	肯定の論理・否定の論理 —いわゆるトルーマン書簡をめぐって “ヒロシマ” 何ともない トルーマン書簡の内容 確かな保険は最優秀兵器 奇妙なそして恐るべき論理 人道主義の限界効用	政治研究会	
昭和33年3月25日	第413号	2	第二次合格者一、二五二名 33年度入学者名 経済学部 法学部 文学部 教育学部 工学部 理学部 医学部 薬学科 農学部	—	
昭和33年3月25日	第413号	2	福岡県が七七〇名	—	
昭和33年3月25日	第413号	2	読者の投稿を募る	九州大学新聞	
昭和33年3月25日	第413号	2	授業料未納者七百余名 今月末で除籍か	—	
昭和33年3月25日	第413号	2	九重で体育部総合合宿 —本学初の試み—	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	九大祭近づく 理科系サークルの参加不足 学校側 全学解放許さぬ 社会調査研究部 美術部 法律研究部 国史科 政治研究部 心理学教室 詩会 将棋部・囲基部 音楽鑑賞部 邦楽・オーケストラ・マンドリン 謡曲・土曜コーラス 演劇部 文芸部 理学部自治会 茶道部 健康を守る会 農学部自治会	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	新制初の博士号 工学部 原田、柳両氏に	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	大学院入学式 総数二一六名	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	良識ある行動を —学長訓辞— 学長訓辞要旨	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	盲点	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	抗生物質を栄養改革にも利用 ワックスマン博士 医学部で講演	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	二十名を追加発表 工学部合格者	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	教養部で新入生歓迎週間 四月十四日～十八日	—	
昭和33年4月10日	第414号	1	論説 ソ連声明の波紋	—	
昭和33年4月10日	第414号	2	新学生歌きまる 春の讃歌	—	
昭和33年4月10日	第414号	2	学園時評 視野を拡大せよ 新入生に望む	垂水春雄	九州大学学生部補導課長
昭和33年4月10日	第414号	2	住江氏の再反論 八中委に基本的欠陥 運動主体の本質規定の欠如	住江毅	経済学部四年
昭和33年4月10日	第414号	2	雪の九重でトレーニング —体育部総合合宿—	K	
昭和33年4月10日	第414号	2	アルバイトの内情 就労率は平均三五%	—	
昭和33年4月10日	第414号	2	体育サークル紹介1 馬術部 空手部 ラグビー部 ヨット部 水泳部	—	
昭和33年4月10日	第414号	2	対西南大レガッタ	—	
昭和33年4月10日	第414号	2	九大人事	—	
昭和33年4月10日	第414号	2	九州六大学野球始る 四月十二日、小倉球場で	—	
昭和33年4月10日	第414号	2	小畑記念林で植樹祭	—	
昭和33年4月10日	第414号	2	部員募集	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年4月10日	第414号	2	学園論潮	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	理科系からも参加 全学的なものに着々進む 九大祭、九～十一日に 九日の休校を交渉 実行委で決定	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	将棋部 将棋大会開催 夕刊フクニチと共催	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	写真コンテスト 九大祭実行委員会・新聞部共催	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	内野スタンド完成 総合グラウンド野球場	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	準備委発足か 教養部の食堂問題	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	矢田部博士を偲ぶ —心理教室で追悼会—	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	第四回中央委開かる 厚生総部機構改革を支持	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	江藤君の冥福を祈って	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	九大人事	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	盲点	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 旧七帝大対抗戦 ヨット 野球 六大学春季リーグ 4・5月のプラン	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 硬式野球	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 準硬式野球	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ ヨット	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 硬式庭球	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 軟式庭球	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ バスケット・ボール	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 卓球	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 馬術	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ ホツケー	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 空手部	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 漕艇	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 寺岡、単複に優勝 全九州学生庭球選手権	—	
昭和33年4月25日	第415号	1	スポーツ 九大、完敗す —対西南大定期レガッタ	—	
昭和33年4月25日	第415号	2	論説 再び自治会再建について	—	
昭和33年4月25日	第415号	2	論説 九大祭をみんなのものに	—	
昭和33年4月25日	第415号	2	日本社会における学生層 学生の位置運動法則の動的把握が必要	北原竜二	東京教育大学文学部学生・全学連中央委員
昭和33年4月25日	第415号	2	春闘の問題点 権利擁護賃金の関連闘争 これが今後に残された課題 去年の闘いから 統一目標と賃上げ 実感を闘争意識まで 最低賃金制の闘い 権利を守る闘い	奥田八二	九州大学教養部助教授
昭和33年4月25日	第415号	2	学生統一戦線の実現を期す 十六中委、新方針を決定	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年4月25日	第415号	2	投書欄 麻生文庫利用していた	目加田誠	九州大学文学部教授・文学部長
昭和33年4月25日	第415号	2	世界の動き 核実験停止宣言は雪解けの第二期冷戦の最終期を画す	政治研究会	
昭和33年4月25日	第415号	3	戦後天皇制の評価 ―イデオロギー的機能を中心に 天皇制の「悪」 天皇の間接的抑圧 非政治的側面 復活の可能性	安部博純	北九州大学講師
昭和33年4月25日	第415号	3	独創に生きる研究生活	原田耕介	九州大学工学部電気工学科助手
昭和33年4月25日	第415号	3	九大祭を盛上げよう 学生に足りぬ関心 少い参加者 我々の九大祭 東大の五月祭は 他の大学をみると 準備が不足 みんなのものに	暁	
昭和33年4月25日	第415号	3	“近代化”を統一テーマに 十、十一日 九州地区史学学生ゼミ 各国近代化の特質について 西洋史学部門 熊大が中心 東洋史学部門 各藩にみる『近代化』 国史学部門	—	
昭和33年4月25日	第415号	3	体育サークル紹介2 航空部 剣道部 卓球部 サッカー部	—	
昭和33年4月25日	第415号	3	九大新聞部部員募集	—	
昭和33年4月25日	第415号	3	学園論潮	—	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 嬉しい中にも挙げる悲鳴 単位・講義・エトセトラ 自然淘汰はまつびらである うらめしいのは単位制	—	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 僕の中の六本松 ―そこに学んだ一年―	文責任記者	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 僕の中の六本松 ―そこに学んだ一年― 平和を守る一つの力に	二宮章一	法学部
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 僕の中の六本松 ―そこに学んだ一年― 人の和を作るサークル活動	金原理	文学部
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 僕の中の六本松 ―そこに学んだ一年― 女という壁を打破って	白石晶子	文学部
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 僕の中の六本松 ―そこに学んだ一年― フレッシュな心をいつまでも	吉沢義教	医学部
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 学生の相談役として ―補導教官制	—	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ ロケット発射は何時のこと ―サークルの悩み―	—	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 新入生諸君！	編集部	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ われわれ自身のため ―学生運動―	—	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 約六万冊の蔵書 ―教養部図書室―	A	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 硬・軟織りませた 田島寮	—	
昭和33年4月25日	第415号	4	特集 新たなる友へ 謙虚にさまざまの本を ―初心者への助言―	石中象治	九州大学教養部教授
昭和33年5月10日	第416号	1	九大祭特集号 喜びたい質量ともの進歩 中村中執委員長語る だが欠ける全学の統一意識	—	
昭和33年5月10日	第416号	1	九大祭特集号 石川・山口両君入選 ポスターとプログラム	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年5月10日	第416号	1	九大祭特集号 記念式典は11日に 名誉教授の講演も	—	
昭和33年5月10日	第416号	1	九大祭特集号 部告 講演会・政治と文学	九州大学新聞	
昭和33年5月10日	第416号	1	九大祭特集号 九大祭予算35万円を計上 昨年より15万円ふえる	—	
昭和33年5月10日	第416号	1	九大祭特集号 NHK②で前夜記念放送 滝沢教授ら五氏が出席	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 展示会 理科系九学科が公開 自動車六十台の展示も ビール作りの実験 ご馳走したい 10・11・12日 国産車60台のパレード 船ができるまで 有明・三池の干拓 ビールとストマイ 「実験教室」開く 寄生虫と細菌標本	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 映画会 10・11・12日 映画部『九大生活』を上映 機械科ほか学術映画も	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 青空天井で茶会 11日 12日 人体デッサンの講習も 加藤教授が指導	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 講演会 小田切秀雄氏ら四人 英詩人 スペンダー氏も来学 11日 中央から講師三人 スペンダー氏招く	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 スポーツ 水上スキーや航走 体育館では空手道大会 11・12日 体育館では空手演武会 水上ページェント 招待空手演武会	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 音楽祭への招待	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 ゼミナール 九州史学学生ゼミなど 経・法・史四回ひらく 10・11日 テエマは近代化	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 11日 選手権はだれだ 福岡学生将棋大会	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 法文地下でバザー	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 九大祭記念パーティー	—	
昭和33年5月10日	第416号	2	九大祭特集号 馬術練習の一般公開	—	
昭和33年5月10日	第416号	3	学内公開 人形そえて“セツルの子供”展 政治風刺、結核学生の実態 法・文・経中心に七サークル 10・11・12日 子供会の指導活動 結核学生の実態を 執筆陣のナマ原稿 美術展と“松川”展 写真・九大と九大生 公約は果されたか	—	
昭和33年5月10日	第416号	3	学園祭迫る 体育祭・文化祭など	—	
昭和33年5月10日	第416号	3	高校教官招いて進学懇談と九大紹介 11日	—	
昭和33年5月10日	第416号	3	レコードコンサート	—	
昭和33年5月10日	第416号	3	九大祭特集号 「大学祭」から九大祭へ 戦後再開は二十三年 水上公園でバザー開く 戦後初回の大学祭 革命的時代 映画祭が全盛 東大五月祭は？全学部全学生が参加 建物使用大いに結集—五月祭— あなたまかせにすぎる—九大祭の現状—	暁	
昭和33年5月10日	第416号	4	九大祭特集号 九大祭プログラム	—	
昭和33年5月25日	第417号	1	福岡勤評問題で声明 四学長ふくむ七十七教授 “世論を入れて話合え” 五月三・九日 二次にわたって	—	
昭和33年5月25日	第417号	1	英語弁論大会出場者を募集	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年5月25日	第417号	1	学園時評 鑑定のスリル ―史学の裏木戸―	桧垣元吉	九州大学教養部教授
昭和33年5月25日	第417号	1	理科系学科の参加で充実 九大開学祭おわる	―	
昭和33年5月25日	第417号	1	寮デコや仮装行列 六月八日に田島寮祭	―	
昭和33年5月25日	第417号	1	湊君(九工大)優勝 福岡県学生将棋選手権	―	
昭和33年5月25日	第417号	1	“平和に向って”を再確認 全学新九州支部大会	―	
昭和33年5月25日	第417号	1	アメリカ便り “大いにゼミして歩いています” デイトも見聞 講義してほめられる 五月三日 マジスン・ウイスコンシン大学にて 方々ゼミして歩く 諸教授と質疑応答 講義頼まれ面食う 心臓強くする食事 警察訪問、親切です コールと違う予定	高橋正雄	九州大学経済学部教授
昭和33年5月25日	第417号	1	“米国の不況は続きそう” 田中教養部長帰る	―	
昭和33年5月25日	第417号	1	抗議集会行わる 五・一五勤評、原水爆に反対して	―	
昭和33年5月25日	第417号	1	盲点	―	
昭和33年5月25日	第417号	2	論説 九大祭を終って	―	
昭和33年5月25日	第417号	2	勤評を解剖する	編集部	
昭和33年5月25日	第417号	2	声明書全文 声明書(第一次五月三日)	―	
昭和33年5月25日	第417号	2	声明書全文 声明書(第二次五月九日)	―	
昭和33年5月25日	第417号	2	勤評を解剖する	編集部	
昭和33年5月25日	第417号	2	勤評を解剖する 政治的意図から 勤務評定 教育内容の統制 教委公選と教科書法に連る 勤評のむずかしさ 教育と政治 教授団の声明	都留大治郎	九州大学経済学部助教授
昭和33年5月25日	第417号	2	勤評を解剖する 真剣さと反省とを 勤評に反対する一教師として	内田節子	市内日中教諭
昭和33年5月25日	第417号	2	勤評を解剖する 心理的側面から 積極的な評定に 長所や特徴の調査の方で 米の教育指導者たち 暗い頁の浮き上り まず積極的な奨励を 研究しやすいように 校長と教員は平等だ [3頁に続く]	関計夫	九州大学教育学部教授
昭和33年5月25日	第417号	2	勤評を解剖する 技術的側面から 教育者は競馬馬ではない ―無理なガウスの曲線的採点―	金原誠	九州大学工学部教授
昭和33年5月25日	第417号	3	[2頁より続く] 勤評を解剖する 心理的側面から 積極的な評定に 長所や特徴の調査の方で 米の教育指導者たち 暗い頁の浮き上り まず積極的な奨励を 研究しやすいように 校長と教員は平等だ	―	
昭和33年5月25日	第417号	3	国際海洋法学会に出席して(上) 公海漁業の危機 核実験禁止問題も未解決 波間に浮ぶ公海自由の原則 公海産業の無法時代 領海六哩、十二哩説も出る 政治的非科学的接続水域論	相川広秋	九州大学農学部教授
昭和33年5月25日	第417号	3	法的裏付けのため 厚生部を生協へ切替え	―	
昭和33年5月25日	第417号	3	経営の未熟さと特殊性 討論点 ―むずかしかった統一論題 長崎の経営学会から 抽象論にかたむく財務計画の諸問題 財務計画論が三つ 研究風刺の表われ 多かつた労務制度 自由論題のテーマ 底が浅い日本経済 高瀬氏の特別講演	副田満輝	九州大学経済学部教授

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年5月25日	第417号	3	日本マルクス主義史上の山川均 確立した“民主主義の論理” 再評価は自から極左批判を生む 国際的な意識と日共からの分離 階級運動の成長期にあつた日本 デモクラシーの階級性を論証 民主主義論の実践 “方向転換論” 協同戦線論で統一理論を具体化 極左批判の道を示すその再評価	嶋(ママ)崎讓	九州大学法学部助教授
昭和33年5月25日	第417号	3	サークル紹介3 女子卓球部 ボート部	—	
昭和33年5月25日	第417号	4	学芸 九大祭ゼミナールから その経過と反省 経済部門 構造面の把握には成功 戦後経済と景気変動	松本讓	経済学部3年・経済研究会員
昭和33年5月25日	第417号	4	学芸 九大祭ゼミナールから その経過と反省 法律討論会 法学生全員の連携を 充実してきた 討論内容	飯野正	法4・セツル 法律部員
昭和33年5月25日	第417号	4	学芸 九大祭ゼミナールから その経過と反省 西洋史部門 今までにない盛会 プラスした統一テーマの設定	甲斐芳昭	文学部西洋史科4年
昭和33年5月25日	第417号	4	学芸 九大祭ゼミナールから 国史部門 転換期にさしかかる 主要歴史学会との連携へ	小川忠洋	文学部国史科4年
昭和33年5月25日	第417号	4	学芸 九大祭ゼミナールから その経過と反省 聞きがいあつた 教養部コーラス 九大祭参加音楽祭評	暁	
昭和33年5月25日	第417号	4	学芸 九大祭ゼミナールから その経過と反省 読者をエリザ朝の観客にする 若荷幸也著「シエイクスピア時代の劇場と劇団」	吉竹迪夫	九州大学教養部教授
昭和33年5月25日	第417号	4	雑誌評 『シネ・ルヴュー』	筆	
昭和33年5月25日	第417号	4	CINEMA アフリカ横断 東宝配給	玲	
昭和33年5月25日	第417号	4	スポーツ 九大、初優勝す 九州六大学野球春季リーグ 平田、最高殊勲選手に 九州六大学野球春季リーグ 山口主将談 木村選手談	—	
昭和33年5月25日	第417号	4	あたたかい声援を 一体育部は努力している	西島克彦	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	全学連大会開かる “右翼偏重を是正” 弾圧には真向から対決する 第十一回大会で決議 5月28～31日 情勢評価で食違う	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	九大人事	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	社会学教室が優勝 文学部ソフトボール大会	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	定足数に満たず 文学部 仮学生大会に	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	菊池教授(法)参加に決定 憲法問題研究会に	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	西日本史学会春季大会開く 九州史学会と合同で	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	十八日に教養部で学生代表者会議	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	教養部学生大会 二十五日・医学部講堂で	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	『展望』編集すすむ 懸賞論文当選作も発表	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	九州数学科学生集会開く 国立大学八校が参加	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	盲点	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	論説 全学連の新方針をみて	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	学園祭を顧みて 予想以上の成果	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	1	山川均追悼講演会 教育会館大ホールで	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	2	特集 総選挙と社会党	編集部	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	2	特集 総選挙と社会党 党の理念はどうあるべきか まず階級政党に徹底せよ そこから他との提携も生れる	川口武彦	九州大学教養部助教
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	2	特集 総選挙と社会党 複雑ではあるが動いている 主体的な組織化が先進大衆の課題 大衆の政治意識はどうか 都市徐々に革新へ向う まだ強い保守意識 農村 主体性もつ大衆へ	徳本正彦	九州大学教養部講師
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	2	特集 総選挙と社会党 組織票の取合いと政治活動自由の軽視 革新政党と労組へ苦言する 党および支持層の反省 民主勢力の敗北と前進 組織票の争奪・攻防戦 保守党的な選挙を越えよ 労組自体も活動を制約 政治活動に真の自由を	戸木田嘉久	九州産業労働科学研究員
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	2	特集 総選挙と社会党 社会党敗北論の意味と実際 国民政党へ導くトリック 中道主義こそ大きなガン 得票数はふえた 国民政党への序説に 日経連主張のウソ	奥田八二	九州大学教養部助教
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	3	松原賞小説入選作発表 入選一席は「死意」 合計二十一票が応募 第一回松原賞小説選考結果 入選(賞金三千元) 『死意』 三枝英紗夫(商店勤務・22歳) 応募作品・作者名	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	3	松原賞小説入選作発表 感想	三枝英紗夫	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	3	死意	三枝英紗夫	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	3	選後のことば	原田種夫	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	4	科学・歴史・人間の結合 現代と科学的認識の態度	石蔵甚平	九州大学教養部教授
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	4	松原十年1 いわゆる『スパイ事件』	平岩馨邦	九州大学農学部教授
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	4	現代史における科学をめぐって ウラニウム(自然科学)と炭素棒(社会科学) —実験がきかない 歴史の炉 新しい文明へ 社会主義社会 政治の機構と制度としての科学 社会変革と科学者の立場	永松一夫	九州大学工学部助教
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	5	松原十年2	編集部	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	5	松原十年2 新制九大発足のころ 私の総長在任中の思い出	奥田謙	元九州大学総長・福岡女子大学学長
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	5	松原十年2 二分校のカメラ事件 無実の学生を救うヒューマニズム	岩崎二雄	九州大学教養部教授
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	5	松原十年2 二分校の水害 水とたたかう恐怖の二十四時間	千々岩猛	学生部、当時第二分校厚生補導

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	5	松原十年2 あわただしかった昭和二十五年レッドパージと鹿子生事件	大森恭輔	九州大学農学部教授
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	5	影と光 結核と学生(1) 十三人に一人結核 足りない“健康意識” ある学生の記録 九大生の“影” 九大の結核現状 結核学生と就職	—	
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	6	海洋法国際会議に出席して(下) 必要な国際的倫理 続くか公海無法時代 公海自由を脅かす大陸棚論 露骨になった公海無法時代 海洋資源は国際協調で 日本漁業にも節度と倫理を	相川広秋	九州大学農学部教授
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	6	松原十年3 中国学術視察団を迎えたころ 友好を語り斗酒 なお辞せぬ郭氏	操担道	九州大学名誉教授
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	6	松原十年3 牧歌的だった第二分校 教官・学生の協力で分校を統合	山下知治	九州大学教養部教授
昭和33年6月10日臨時増刊	第418号	6	独自の性格を持って 九州大学新聞を読んで	佐々木一義	九州大学教養部教授
昭和33年6月25日	第419号	1	第八回代議員総会開く 自治会の再建・強化を次期委員長に大塚信幸氏(E3)	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	学部長改選さる 富安教授(農)・岡崎教授(理) 富安行雄教授・岡崎篤義教授	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	今年はエビノ高原 九学連サマーキャンプ	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	勤評問題研究会発足へ 大森、金原教授らを中心に	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	九大人事	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	六月例会ひらく 社会経済史学会九州部会	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	野球部、西日本大会に優勝 リーグ戦に続く二度目の覇権 三賞、九大が独占	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	特殊ガラスの温室誕生 福島教授(園芸学)が考案	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	北九州を中心に 夏季インカレ予定きまる	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	九大YMCA学生会館完成	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	全学新大会開く	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	五大学合同合唱祭 七月五日・電気ホールで	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	勤評反対等八項目 教養部学生大会で決議	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	論説 再び九大のスポーツについて	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	全学連大会の対立点をみる 根本は情勢分析の相違 発足後初めての大きな混乱 情勢分析の相違点 昨年の運動の評価 方針基調の食違い 運営上でも対立	—	
昭和33年6月25日	第419号	1	盲点	—	
昭和33年6月25日	第419号	2	パネル科学史論の性格 “制度としての科学”の考え —社会科学の苦悶をめぐって—	正田誠一	九州大学経済学部助教授
昭和33年6月25日	第419号	2	全国法学ゼミを開催 十一月本学で 四十校が加参(マ?)	—	
昭和33年6月25日	第419号	2	定期演奏会ひらく 九大オケ・30日電気ホール	—	
昭和33年6月25日	第419号	2	応援ニワカ作り	—	
昭和33年6月25日	第419号	2	ただよう生ぬるさ 福岡六大学美術展評	美	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年6月25日	第419号	2	影と光 学生と結核2 九大の健康管理 もっと利用を組織的な健康管理が必要 健康相談所 気軽に健康相談を 九大の学生保険 健康管理の組織化	—	
昭和33年6月25日	第419号	2	実在たる人間(ペルソナ)の再認識 —G・マルセルとその思想—	ルイ・M・ペリポー	九州大学文学部講師
昭和33年7月10日	第420号	1	勤評粉碎総決起大会開く リボンを胸に 四百名教育庁へデモ 大会スローガン	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	大学の勤評やめよ 九大職組 文相に抗議	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	地区民と強い結合を セツル 夏の活動計画を決定	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	教養部新館を増築	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	十一日から独、仏語講座	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	教養部行事予定	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	活動を続ける「ヒマラヤ研究会」	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	九大二度目の優勝 西部国公立大水上選手権	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	沖縄、種ヶ島などに考古学のメス	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	高橋助手に西独に留学	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	共同デスクを組む 九学新インカレ取材	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	関計夫教授渡米 十月中旬帰国の予定	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	ケインズ輪読会 経済研を中心に	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	帰朝記念講演会開く 高橋・田中・岡橋教授	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	論説 平和への決意を固めよう 第四回原水爆禁止世界大会へ	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	新入生の問題をさぐる 学生部の調査結果から質の高い経済的な悩み 数では“社交娯楽”が最高 思想的な悩みは低い	—	
昭和33年7月10日	第420号	1	盲点	—	
昭和33年7月10日	第420号	2	全九州学生商経学会に出席して 不足した日本経済の統一的把握 近経との対決意識も必要 統一把握には違い アプローチの観点 白書の提案に疑問 各大学の観点は 学内連絡の不徹底	松本譲	九州大学経済学部3年・経済研究会員
昭和33年7月10日	第420号	2	雑誌評 編集に立体性が不足 展望第3号	肇	
昭和33年7月10日	第420号	2	意欲的だが…目立つ練習不足 五大学合唱祭を聞いて	—	
昭和33年7月10日	第420号	2	影と光 学生と結核3 学生健康保険 私大側の反対でお別れに 従来の考えに再検討の声も その財政計画は 私大の反対で流産 制度の再検討	—	
昭和33年7月10日	第420号	2	剣道部 西日本大会に優勝	—	
昭和33年7月10日	第420号	2	壱岐、対馬を巡回 映画部 映画講演会を開く	—	
昭和33年7月10日	第420号	2	七月のベストセラー	—	
昭和33年9月25日	第421号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年9月25日	第421号	1	勤務評定をどう見る 九大新聞アンケート アンケート 建設的評定を期待 問題は今後の闘いに政治的意図に反対する まず理論的活動が必要 内容理解が大切 客観的評定はできぬ 日教組は闘い続けよ 先生のストには疑問 世論を味方にせよ [4頁に続く]	1. 吉村恂 2. 松本讓 3. 松尾正人 4. 藤井みどり 5. 山本正巳 6. 八幡竜夫 7. 森本哲夫 8. 安達紀恵子 9. 松井孝司	1. 学生部長 2. 経済学部三年 3. 工学部二年 4. 文学部二年 5. 文学部三年 6. 工学部一年 7. 法学部二年 8. 文学部三年 9. 教育学部三年
昭和33年9月25日	第421号	1	勤評は政治的に機能する “戦術批判” を形成した新聞	嶋(ママ)崎讓	九州大学法学部助教
昭和33年9月25日	第421号	1	盲点	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	論説 勤務評定に反対する	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	学生部長に吉村教授(理)	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	辻光子さん死去 過労から日本脳炎に倒る	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	勤評反対に全力を 全学連臨時大会開く	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	労働法研究会 地裁会議室で	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	垂水補導課長欧米視察へ 来春、帰国の予定	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	ガードナー講師 お茶の水大へ赴任	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	ファイトトロン完成 三年がかり三千万円也	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	具島教授訪ソ 九月三〇日帰国の予定	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	対校ジュニア共に九大勝つ 熊大・九大対校レガッタ	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	文学部同窓会 二十三日三畏閣で	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	教授就任講演会 工学部で行う	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	十一月十五、十六日学内レガッタ	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	医学部全面的に改築 各科を一むねに統合 第一期(5%)工事はじまる	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	九大、ヨットに三連勝 第八回インカレ 北九州で開く	—	
昭和33年9月25日	第421号	2	秋の九州大学野球日程	—	
昭和33年9月25日	第421号	3	正に工学士サマ景気 無試験でどうぞ 減る一方の“教授のタマゴ” 娘一人にムコ三人 奨学金一万円進呈 「来年から学生をを渡さぬ」 やはり不利な胸の病 最大の被害者は	暁	
昭和33年9月25日	第421号	3	“目立った採用方針はない” —就職懇談会ひらく—	—	
昭和33年9月25日	第421号	3	映研、壱岐対馬を回る 内田(農・教授)徳本(教養講師)らと展望	今井敏雄	経済学部三年
昭和33年9月25日	第421号	3	映画 絶唱 日活映画	—	
昭和33年9月25日	第421号	3	仏語、独語講座開く	—	
昭和33年9月25日	第421号	3	学部別求人状況 文学部 法学部 経済学部 教育学部 農学部 工学部 理学部	—	
昭和33年9月25日	第421号	4	調査と成果 沖の島調査記 棲息動物の総合調査を終って 調査は休みを利用 生物学上の宝庫	平岩馨邦	九州大学農学部教授

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年9月25日	第421号	4	調査と成果 闘志欠乏の山村児 —山村児童の標本を求めて—	藤本実雄	九州大学教養部助教
昭和33年9月25日	第421号	4	調査と成果 自動車九州一周 軽快に西海橋を行く 二、〇一七キロを一週間で走破 自動車研初の壮途に九州を 虹の松原を時速六〇キロで 道路の評定に神経を集中 汗と油を通して自信を得る	土山嘉雄	工学部機械工学科四年・九大自動車研究会員
昭和33年9月25日	第421号	4	[1頁より続く] 勤務評定をどう見る 九大新聞アンケート アンケート 建設的評定を期待 問題は今後の闘いに 政治的意図に反対する まず理論的活動が必要 内容理解が大切 客観的評定はできぬ 日教組は闘い続けよ 先生のストには疑問 世論を味方にせよ	1. 吉村恂 2. 松本讓 3. 松尾正人 4. 藤井みどり 5. 山本正巳 6. 八幡竜夫 7. 森本哲夫 8. 安達紀恵子 9. 松井孝司	1. 学生部長 2. 経済学部三年 3. 工学部二年 4. 文学部二年 5. 文学部三年 6. 工学部一年 7. 法学部二年 8. 文学部三年 9. 教育学部三年
昭和33年9月25日	第421号	4	平和運動がセツルの任務 日常活動で大衆を組織	勝野馥	
昭和33年10月25日	第422号	1	新旧両法にみる警職法 現行法 改正案	—	
昭和33年10月25日	第422号	1	解説 目立つ警官の職権拡大 ねらわれるデモ・学生	—	
昭和33年10月25日	第422号	1	警職法反対に学生ゼネストも計画 全学連・九学連の方針	—	
昭和33年10月25日	第422号	1	警職法改正は民主主義の破壊 日本政治学会反対声明	—	
昭和33年10月25日	第422号	1	本年度司法試験合格者	—	
昭和33年10月25日	第422号	1	サウスワース ハーバート両講師着任 —文学部英文科—	—	
昭和33年10月25日	第422号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和33年10月25日	第422号	1	盲点	—	
昭和33年10月25日	第422号	2	論説 学生運動はこれでよいのか みんなに読んでもらいたい 失敗した九・一五 逆立している指導者 スト方針は慎重に 日常活動に大欠陥 学生から離れるな	—	
昭和33年10月25日	第422号	2	ルポ 道徳講習会を別府にみる 強いピケ・弱い関心 望まれる幅広い運動 講習会阻止 学生百三十名が参加 面会謝絶 受講者一同 ピケは逆効果? 私服潜入と学生逮捕 運動方法に疑問	—	
昭和33年10月25日	第422号	2	自由と責任の上に 『大学の自治』をめぐって	竹原良文	九州大学法学部教授
昭和33年10月25日	第422号	3	“要は実力と人物” 中盤の就職 受験者にきく	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	「ガン研」のスタッフ決る 生化学陣を主体に	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	投書 学生運動へ一考を	三好正堂	医進・一
昭和33年10月25日	第422号	3	学部別就職内定者数	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	教養部で購買部設置の見込み	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	求人状況・追加 法学部 理学部 農学部	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	体育サークルだより 十一月の予定 ラグビー部	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	体育サークルだより 十一月の予定 野球部	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	体育サークルだより 十一月の予定 軟式庭球部	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年10月25日	第422号	3	体育サークルだより 十一月の予定 剣道部	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	体育サークルだより 十一月の予定 女子庭球部	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	体育サークルだより 十一月の予定 サッカー部	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	九大の連覇か 九州六大学野球秋季リーグ	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	学友会厚生部書籍部新刊案内	—	
昭和33年10月25日	第422号	3	ゆるがぬマルクスレーニン主義への信頼 —ソ連の学生生活をみて— 国から給料をもらう学生達就職不安なく朗らかな生活 ソ社会への絶対の信頼 社会主義発展への強い意欲	具島兼三郎	九州大学法学部教授
昭和33年10月25日	第422号	3	隠し砦の三悪人 東宝映画	N	
昭和33年10月25日	第422号	4	書評 評論家的な教養 組織の体験を軽視 現代教養全集第一巻「戦後の社会」	小林栄三郎	九州大学文学部教授
昭和33年10月25日	第422号	4	書評 親切な就職の手引 “方言は面接に不利 毎日新聞社会部編「就職」	山川丈平	九州大学教養部助教
昭和33年10月25日	第422号	4	岸壁に浮ぶ大日如来像 大分の石仏を訪ねて 穏かな風情の石仏群 古文書にしのおぶ大友宗麟 静かに信仰を語る磨崖仏	石木史郎	
昭和33年10月25日	第422号	4	火山爆発の予知 阿蘇と取組む 火山活動と温度変化に着目—南北火口で常時観測— 爆発のおそろしさ 火山活動の予知 温度と噴気圧を観測 温度変化を電流に 温度ピーク後に微動	種子田定勝	九州大学理学部助教
昭和33年10月25日	第422号	4	冬季イン・カレ近づく 十一月初旬から約一月	—	
昭和33年10月25日	第422号	4	京大との交歓会開く 国史学研究室	—	
昭和33年10月25日	第422号	4	三大学対抗 モーターボート・レース	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	警職法反対に国民運動 日ごとに高まる世論 十・二八、十一・五、両日 悪法の阻止に立上る福岡地区学生抗議大会に二千名	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	福岡で国民大会 一万二千人が参加	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	警職法改悪反対! 教養部学生大会で決議	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	定足数にみたく 文学部学生大会開く	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	経済学部教授団も反対声明	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	すべり出し良い就職 すでに五八・一パーセント	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	22、23日に体育祭 学友会が初の試み	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	新館増築工事進む 教養部 運動場も面目一新	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	論説 学生運動を根強く押し進めるために	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	田島寮ホール 十七万円の欠損 帳簿のない経理	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	植物学会開く 十月廿五日・六・七日本学で	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	第七回九州フランス文学会開く	—	
昭和33年11月10日	第423号	1	盲点	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年11月10日	第423号	2	治安維持法時代の思い出 “自殺のおそれ” で保護される 警官を憎む気はないが 大杉栄の講演会 検束された検事 『改造』 でアカだ！ 一年間の『保護』 警官のために一言 パリの警察官	高橋正雄	九州大学経済学部教授
昭和33年11月10日	第423号	2	警職法改正これからは本番 空砲だった社会政策学会反対声明	奥田八二	九州大学教養部助教授
昭和33年11月10日	第423号	2	生化学から「癌」の探究 「九大癌研」の指向するもの	高橋泰常	九州大学医学部助教授
昭和33年11月10日	第423号	2	遺伝的影響を重視 放射線許容量の改訂をめぐって(上) 放射線による障害 I. C. R. Pの勧告の要点	山田芳雄	九州大学農学部助教授
昭和33年11月20日	第424号	1	学術探検隊軌道に乗る 「SEKU」 来夏出発の予定 アルケイ両諸島(アラフラ海)を調査 現地学者と協同研究	—	
昭和33年11月20日	第424号	1	レジダンス・ジャン・ゼイ —フランスの学生住宅—	城野節子	九州大学教養部助教授
昭和33年11月20日	第424号	1	学内十団体が声明 警職法反対機運ますます高まる 反対を声明した団体 法学部教授・助教授団 声明 教養部教授団声明	—	
昭和33年11月20日	第424号	1	本学で全国法学ゼミ 契約自由の原則をテーマに	—	
昭和33年11月20日	第424号	1	論説 二日間の行動について	—	
昭和33年11月20日	第424号	1	改正警職法案は違憲 主権者を無視した政府 侵される国民権 憲法と相容れぬ内容 慣行無視した提案 内閣総辞職要求を	柳春生	九州大学産業労働研究所助教授
昭和33年11月20日	第424号	1	盲点	—	
昭和33年11月20日	第424号	1	科学史学会公開講演会開く 十二月六日教養部で	—	
昭和33年11月20日	第424号	2	書評 貧困なテレビ研究 インテリ向けハンドブック マス・メディアとしてのテレビジョン 「思想11月号」	内藤莞爾	九州大学文学部助教授
昭和33年11月20日	第424号	2	書評 農村社会の実態をさぐる 婦人像を通して農村の後進性を描く 溝上泰子著 「日本の底辺」	青山道夫	九州大学法学部教授
昭和33年11月20日	第424号	2	書評 大きい政治的意味 国民自身の問題として 「松川裁判」 中央公論緊急増刊号	井上裕司	九州大学法学部助教授
昭和33年11月20日	第424号	2	九大連合演奏会 十一月二十九日に	—	
昭和33年11月20日	第424号	2	許容量を引き下げる 放射能許容量の改訂をめぐって(下)	山田芳雄	九州大学農学部助教授
昭和33年11月20日	第424号	2	CINEMA 「静かなるドン」 松竹配給	—	
昭和33年12月25日	第425号	1	自治会再建を目標に—第九回代議員総会開く— 新委員長 大藪竜介氏(法・2) 活動報告 学内状態 活動一般方針	—	
昭和33年12月25日	第425号	1	岸内閣の歩んだ道 財界、米国が歓迎 独占資本の制約要因	—	
昭和33年12月25日	第425号	1	国民の人気サッパリ 米国との軍事協力を前提 憲法改正の実現へ “日米新時代” 憲法改正をめざす 警職法でつまづく	毛利敏彦	九州大学法学部助手
昭和33年12月25日	第425号	1	論説 単位自治会の再建を	—	
昭和33年12月25日	第425号	1	学園時評 科学とジャーナリズム	大森恭輔	九州大学農学部教授
昭和33年12月25日	第425号	1	後期執行委員決る 委員長に森君 教養部	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和33年12月25日	第425号	1	九大入試要項決る 理学部も学科別に募集	—	
昭和33年12月25日	第425号	1	コールアカデミー 一月に定期演奏会	—	
昭和33年12月25日	第425号	1	教養部で購売部開店	—	
昭和33年12月25日	第425号	1	盲点	—	
昭和33年12月25日	第425号	2	真剣な討論に終始 全国法学ゼミ 少なかった九大生	平田健二	法学部三年、第五回全日本学生法学ゼミナール実行委員長
昭和33年12月25日	第425号	2	投書 勤評反対は根強く	高田喜美子	薬学部二年
昭和33年12月25日	第425号	2	「潮汐実験水槽」でできる 三ヶ年計画で新設	—	
昭和33年12月25日	第425号	2	九大の歌 沈滞している“うたごえ” 世の動きに対する関心の薄さ	暁	
昭和33年12月25日	第425号	2	書評 深く潜められた思い 現代の生き方と文学研究 猪野謙二著『日本文学の近代と現代』	重松泰雄	九州大学教養部助教
昭和33年12月25日	第425号	2	就職状況 昨年を上回る成績 出足早で伸びなやみ(12月15日現在) 文学部 教育学部 法学部 経済学部 工学部 理学部 農学部 薬学科	—	
昭和34年1月15日	第426号	1	1959年の九大は 山田学長に聞く 学科充実に一層努力 望まれる教師・学生の交流	文責在記者	
昭和34年1月15日	第426号	1	九大人事 [異動]	—	
昭和34年1月15日	第426号	1	合化 建築 両教室を新築 34年度末に完工予定	—	
昭和34年1月15日	第426号	1	大藪新委員長の抱負 学生運動を活発に 学割減数にも対処	—	
昭和34年1月15日	第426号	1	論説 古い勢力を駆逐するまで	—	
昭和34年1月15日	第426号	1	単複ともに一位 九州学生庭球ランキング	—	
昭和34年1月15日	第426号	1	九大オケ定期演奏会 一月十九日電気ホールで	—	
昭和34年1月15日	第426号	1	盲点	—	
昭和34年1月15日	第426号	2	芸術・ゴッホ・感動 —K君への手紙 納得ゆかぬ深刻顔 静かだったゴッホ ゴッホとの距離 感動に新旧はない	高橋満	青年美術家協会員
昭和34年1月15日	第426号	2	学生運動を再考する1 日常活動の中から闘争を学生の利益擁護のために 学生運動の出発と継承 如何に発展してきたか	二宮章一	
昭和34年1月15日	第426号	2	第二回松原賞小説を募る	九州大学新聞	
昭和34年1月15日	第426号	2	電子工学科を新設 今年は一講座 三年後六講座に	—	
昭和34年1月15日	第426号	2	教養部の新コート開く	—	
昭和34年1月15日	第426号	2	四月までの行事予定	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年1月15日	第426号	2	採用者からみた九大生 アンケート いわば“並”どころ 好感もてるが粒が小さい 広範囲の知識を 一般的にすぐれる 平均点に集中 自信喪失の気味 おとなしすぎる感 事務系はやゝ劣る	1. 田中重之 2. 森芳男 3. ゼネラル物産人事課長 4. 田中清太郎 5. 水町潔 6. 飯田馨	1. 福岡銀行人事課長 2. 九州電力人事課長 3. ゼネラル物産人事課長 4. 安川電機労働課長 5. 三井鉱山人事課長 6. 日立製作所人事課長
昭和34年2月25日	第427号	1	六教授学園を去る 九大とともに三十余年 たたえられるその業績 大脇策一教授 田辺重三教授 田村茂美教授 牧川鷹之祐教授 山崎光夫教授 渡辺恵弘教授	—	
昭和34年2月25日	第427号	1	総額四百六十余万円 三十四年度予算大綱 中央委員会で承認	—	
昭和34年2月25日	第427号	1	歴史が雄弁に物語る 紀元節 建国祭の本質 暦がない神武時代 祝祭日は天皇が中心 制定の直接動機は？ 征服者の“紀元節の歌” 軍国主義促進に利用 デモクラシーは発展したが 民主主義運動の弾圧も強力	竹内理三	九州大学文学部教授
昭和34年2月25日	第427号	1	盲点	—	
昭和34年2月25日	第427号	2	社会党の性格 向坂教授に聞く アイマイな国民党論 “国民大衆”の分析を欠く 国民党の概念 二重性格の中小企業者と農業民 農民の組織化は可能 マルクス主義は流行ではない 現実感覚は歴史的な性格から 統一戦線の可能性 革命の客観的条件 マルクス主義と現実 大衆行動は必要 議会制の欠陥を補う 前衛党と大衆政党 議会制と大衆行動 平和革命の誤認	—	
昭和34年2月25日	第427号	2	論説 体験を生かす努力を —受験生への一言—	—	
昭和34年2月25日	第427号	2	学生運動を再考する(2) 意義を知った警職法反対 授業妨害には抵抗感 警職法反対で初めて参加 無知な集りと批判される 運動の方法に疑問を持つ 組織の尊さをしみじみ知る	岡部栄子	文学部一年
昭和34年2月25日	第427号	3	全被告の無罪を確信 三年間の活動をかえりみて 松川事件研究会 「松川守る会」発足 自分の眼で真相を 事実誤認の疑い 共同認識とアリバイ 自白が強要された 矛盾にみちた内容 最後まで注目しよう 最終判決は四月頃	松川事件研究会	
昭和34年2月25日	第427号	3	二つの演奏会から 実力を再認識させた演奏 ピアニシモにもっと美しさを 九大オーケストラ	大久保格	九大コーラルアカデミー指揮者
昭和34年2月25日	第427号	3	二つの演奏会から 迫力あった“枯木と太陽の歌” 欲しい繊細な感覚 コールアカデミー	穴山健	九大オーケストラ指揮者
昭和34年2月25日	第427号	3	山岳部 槍ヶ岳集中に成功 極地法も試みる 果した数年来の懸案	松尾宇蔵	
昭和34年2月25日	第427号	3	CINEMA 「白痴」独立配給	B	
昭和34年2月25日	第427号	3	竹内教授東大へ 来学期から史料編纂所に	—	
昭和34年2月25日	第427号	3	第二回松原賞小説を募る	九州大学新聞	
昭和34年2月25日	第427号	3	野球部 全国大会に三度目の出場	—	
昭和34年2月25日	第427号	3	学内短信 原稿募集	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年2月25日	第427号	3	学内短信 教養部女子学生の会開かる	—	
昭和34年2月25日	第427号	3	学内短信 火災報知機お目見得	—	
昭和34年2月25日	第427号	4	特集 大学入試の問題点 —受験生・教養部生の手記から— 大学生として 理想との矛盾に身悶え	[編集部]	
昭和34年2月25日	第427号	4	特集 大学入試の問題点 —受験生・教養部生の手記から— 受験生として 入試は一種の生理現象	大穂広祐	
昭和34年2月25日	第427号	4	特集 大学入試の問題点 —受験生・教養部生の手記から— 浪人として 自分の立場を考えて	竹下章	
昭和34年2月25日	第427号	4	特集 大学入試の問題点 —受験生・教養部生の手記から— 大学生として 理想との矛盾に身悶え	梶原紘二	
昭和34年2月25日	第427号	4	特集 入試は大学入試の問題点 —受験生・教養部生の手記から— 将来の学園生活のためこの問題を再考しよう	—	
昭和34年2月25日	第427号	4	特集 大学入試の問題点 受験生諸君へ	編集部	
昭和34年2月25日	第427号	4	二つの「現実密着主義」 —把握してほしい問題点—	小林栄三郎	九州大学文学部教授
昭和34年2月25日	第427号	4	志望者少し増える 十日 入学願書締切る	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	団結の自由とILO条約 清算されぬ労働者敵視政策 労働階級にも反省の契機 団結権の保障と九八号条約 怠っている八七号条約批准 八七号批准と今後の問題 必要な労働政策の質的転換	林迪広	九州大学法学部助教授
昭和34年3月25日	第428号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	大分大 愛媛大の教官に処分問題 “道德講習会” での演説から	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	ハイドンの「告別」に送られて —卒業生送別会—	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	来年度九大合格者一三六二名 薬学科八割が女子	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	『菊池教授還暦祝賀論文集』発行 —九大法政学会—	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	辻光子さん『追悼文集』の発刊	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	“玄海二世号” 進水 後援会が寄贈する	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	本学三対二で勝つ 関大招待野球試合に	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	第二回松原賞小説を募る	九州大学新聞	
昭和34年3月25日	第428号	1	論説 安保条約の廃棄を	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	階級なき社会でのみ可能 国民政党論の本質をつく 国民政党論者の考え 党が体制変革を断念 20世紀的政党へ転化 特殊利益を守る政党	井田輝敏	九州大学法学部助手
昭和34年3月25日	第428号	1	学内短信 [ニューヨーク大学オチヨワ教授の講演会]	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	学内短信 [学生寮欠員補充内定者決まる]	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	学内短信 [本学アルバイトカード変更]	—	
昭和34年3月25日	第428号	1	盲点	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年3月25日	第428号	2	志免鉱業所の払下げをめぐって “最終的段階のない闘い” 国鉄の経営合理化への突破口 志免鉱業所の歴史 国営七〇年の伝統 出てきた身売り話 附帯事業は分離 変転する売山理由 経営は転好した 合理化の余地は？ 国鉄当局の言い分 長期経営は可能 組合側の言い分 片寄った調査会の答申 周辺四ヶ町村も反対 現地の表情 ヤマを覆う不安 “総ぐるみの体制で” 何故反対するか 共斗体制をくむ もめる組合内部 町長公認をめぐり	X	
昭和34年3月25日	第428号	2	国鉄の切売り政策 —志免炭鉱払下げ反対—	阿世賀輝雄	国労志免支部委員長
昭和34年3月25日	第428号	2	学生運動を再考する(3) “民主々義擁護”で結集を 中間層としての性格に限界 自治会活動の二面性 低調の原因は学生の中に 学生運動の必然性と限界 その育生は各人の手に	秦明夫	
昭和34年3月25日	第428号	2	大学院入試始まる	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	九大祭準備すすむ 学部単位中心に 体育祭も併せて開催 5月10、11、12日	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	留年する一八〇名 九割が文科系 実態は“就職浪人”	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	第二回松原賞小説を募る	九州大学新聞	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	春の九州六大学野球開く	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	“実り多い四年を” 学長あいさつ 新しい角帽一三五〇	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	大学院へ二四二名	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	文学部にドイツ人講師 レーベンフェルダー女史着任	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	1	盲点	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	2	論説 砂川闘争を生かせ	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	2	特集 判決 平和憲法とその現実	編集部	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	2	特集 判決 平和憲法とその現実 うなずける違憲の結論 —憲法無視の国策に反省の機— 憲法と条約の関係 判決の論理 裁判所は条約の憲法適合性を審査し得るか 日米安全保障条約は憲法違反か	手島孝	九州大学法学部助教授
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	2	特集 判決 平和憲法とその現実 安保闘争に的をうつ一石 国内政局のジレンマを浮彫 その政治的影響 戦力保持は違憲 国際政局にも波紋 政府の行動を監視 重大な政治的反応 破滅を招く核装備 憲法九条は現実的 憲法に精神に帰れ 判決の教えるもの	竹原良文	九州大学法学部教授
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	2	特集 判決 平和憲法とその現実 司法権をめぐって 司法権には限界 違憲審査には消極的効果のみ 国民運動の契機たらしめよ	吉村徳重	九州大学法学部助教授

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	2	安保条約反対闘争 五月中旬をピークに	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	2	九大新聞部部員募集	—	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	3	オキナワ 琉球大学を訪ねて 願いはただ“日本復帰” —研究心に燃える硫大生— 実質的な米軍管理 施設は整っている 安保条約へ強い関心	柴田健次	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	3	学生運動を再考する(4) 広い視野と理論的武装を —民主社会の進歩に貢献—	高比良光司	法学部大学院生
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	3	天皇制の曲り角 —皇太子妃の意味するもの— おかしい“平民”の娘 危険な“制”の復活 権威と権力の分業 まだ使えぬ天皇制 新しい装いの下に	安部博純	法学部大学院生
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	4	六本松への招待	編集部	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	4	六本松への招待 学資 全学生の三割強が『育英会』奨学金	房	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	4	六本松への招待 施設 利用者の多い学食 さらに望まれる改善	平	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	4	六本松への招待 生活 学生運動 現実を見つめよ 友情もウサもコンパで	M	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	4	六本松への招待 学問 講義も十人十色 勧めたい先生との接触	ドル	
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	4	六本松への招待 読書 『学び』それから『問う』 読書に対する基本的心構え	佐々木一義	九州大学教養部教授
昭和34年4月10日臨時増刊	第429号	4	外国語 数学演習履修単位ふえる つまる工学部の時間割	V	
昭和34年4月25日	第430号	1	九大祭近づく 今年こそ全学生のものに	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	科目を発表 35年度九大入試	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	九学新大会開かる 五月四、五日別府で	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	目立つ自治意識の低さ 教授にもするどい批判 経済学部自治会アンケートから	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	33年度就職決定91% 前年度をやや上回る	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	私の歩いた道 はじめに	向坂逸郎	九州大学経済学部教授
昭和34年4月25日	第430号	1	スポーツ 硬式庭球	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	スポーツ 硬式野球	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	江崎教授の蒐集品展示会 七日から丸善ギャラリーで	—	
昭和34年4月25日	第430号	1	盲点	—	
昭和34年4月25日	第430号	2	論説 憲法記念日を前にして	—	
昭和34年4月25日	第430号	2	第二回松原賞小説を募る	九州大学新聞	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年4月25日	第430号	2	座談会 菊花をこう受けとめる 錯覚“平民出のお妃” 民主化とは関係がない 有効性は少ない 天皇制の利用価値 基盤を欠く “象徴”の地位 階級意識にかかる今後の方向	1. 井廻弘子 2. 松本譲 3. 中村栄子 4. 原島重義 5. 福田豊	1. 福岡女子大英文科二年 2. 経済四年、経済研究会 3. 文学部仏文科学研究生 4. 九州大学法学部助教授 5. 社会問題研究所員
昭和34年4月25日	第430号	3	安易な復活論は危険 天皇制はばむ民主勢力	川口武彦	九州大学教養部助教授
昭和34年4月25日	第430号	3	厚生総部の問題点 果したい生協法人化 全学的視野で問題解決を 独占価格をはね返す 生協法人化の問題 不安定を利益率 経営健全化の問題 大局的見直しを 専務理事設置の問題 学生会報がほしい 施設改善の問題	厚生総部委員会	
昭和34年4月25日	第430号	3	学生運動を再考する(5) 再検討は学生大衆の場で 傍観は自治の放棄	徳本正彦	九州大学教養部講師
昭和34年4月25日	第430号	3	江崎君の追憶 その記念苑集展に際して	平岩馨邦	九州大学農学部教授
昭和34年4月25日	第430号	3	職種を選ぶ傾向 昨年度のバイト実績まとめる	—	
昭和34年4月25日	第430号	3	量に還元された革命 —「戦艦ポチョムキン」をみて—	荻野雅弘	文学部仏文科大学院生
昭和34年4月25日	第430号	3	るうぺ 建築と社会発展	光吉健次	九州大学工学部助教授
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 ゼミナール 砂川・安保の問題点をつく 法律研・政治研	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 学内公開 理科系十学科が公開 山羊の解剖実演も	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 フォークダンスで前夜祭	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 十一日に記念式典 名誉教授の講演も	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 開学祭記念懇談会	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 九大祭予算 総額四十六万円	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 フォークダンスで前夜祭	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 夢の招待ドライブ —自動車研—	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 多彩な音楽演劇祭 十二団体が参加10日	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 催し物	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 尚一層の情宣活動を 九大祭実行委員に望む	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 講演会 現代の社会的状況と学生 谷川雁氏ら来学	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 映画 盛んな映画会	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 展示会 野球ファンの実態は 力作そろえた展示会	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 新計画の成功を祈る 山田学長談	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 学部単位の九大祭へ 権島実行委員長談 欠ける九大祭への理解	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 工藤 藤田両君が入選 ポスター、プログラム	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 スポーツ ソフト等盛大に スポーツの祭典も一緒に	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 “九大祭”電波にのる 農学部座談会「九州干拓」	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 教育・法律相談所開設 結婚テストも行ないます	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	九大祭特集 モーツァルトを特集 レコード・コンサート	—	
昭和34年4月25日	第430号	4	部告	—	
昭和34年5月25日	第431号	1	五・一五統一行動デー 安保条約破棄を呼びかく 福岡では雨中を千三百名のデモ	—	
昭和34年5月25日	第431号	1	九大人事 [異動]	—	
昭和34年5月25日	第431号	1	六学部長改選迫る	—	
昭和34年5月25日	第431号	1	文部省 大学の自治に介入 熊大学長選挙問題	—	
昭和34年5月25日	第431号	1	経済学部自治会再建へ具体化 ゼミ単位に組織	—	
昭和34年5月25日	第431号	1	お知らせ	—	
昭和34年5月25日	第431号	1	論説 安保条約破棄の日まで	—	
昭和34年5月25日	第431号	1	私の歩いた道2 ある殺人犯人	向坂逸郎	九州大学経済学部教授
昭和34年5月25日	第431号	1	盲点	—	
昭和34年5月25日	第431号	2	教養部学園祭 22、23、24日 放送討論会も計画 クラス対抗 コーラス合戦に前景	—	
昭和34年5月25日	第431号	2	るうぺ 医学博士というもの	金関丈夫	九州大学医学部教授
昭和34年5月25日	第431号	2	九大祭おわる 実を結んだ新方針 足りぬ学校側の協力	T	
昭和34年5月25日	第431号	2	盛会だった音楽祭 応化コーラスも熱演	—	
昭和34年5月25日	第431号	2	九大初優勝す 国立七大学対校ヨット	—	
昭和34年5月25日	第431号	2	『経済研究』第三号出来上る	—	
昭和34年5月25日	第431号	2	“カセムは人民の太陽” イラク展のサマライ君	—	
昭和34年5月25日	第431号	2	CINEMA ニューヨークの王様 東急文化配給	—	
昭和34年5月25日	第431号	2	雨に流れた体育祭	—	
昭和34年5月25日	第431号	2	皆さんできますか わたしの答案	高橋正雄	九州大学経済学部教授
昭和34年6月25日	第432号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	六学部長改選さる 新しく秋吉(工)副田(経)教授 教養学部は田中教授再選	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	経済学部自治会再建成る 25日に学生大会	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	ブランデン氏 本学で講演	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年6月25日	第432号	1	なごやかな懇談会 経済学部 教授と学生を親密に	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	自治会再建強化を確認 第十一次代議員総会開く 中執委委員長 和田敏之君(法三)	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	私の歩いた道(3) 経済学を志す前	向坂逸郎	九州大学経済学部教授
昭和34年6月25日	第432号	1	全学連14回大会開く “階級闘争”を再確認	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	全学連の方針を支持 委員長に大藪君(九大) 九学連大会	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	田島寮祭盛大に 六月二十、二十一日	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	大学院の入試十月に 経済学部で繰り上る	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	夏季インカレ福岡で開催 7月11日から6日間 本校が当番校	—	
昭和34年6月25日	第432号	1	盲点	—	
昭和34年6月25日	第432号	2	論説 教養部のストについて	—	
昭和34年6月25日	第432号	2	学生運動をどう見る 編集部の調査から 政治活動の意義を認める86% 自治会必要は69%	—	
昭和34年6月25日	第432号	2	全学連第十四回大会から(解説) 極左路線を再確認 組織内に矛盾生じる 階級闘争と平和擁護 民主戦線から孤立 忘れられた学園問題	V	
昭和34年6月25日	第432号	2	松原風土記(1) 年輪は語る —林学教室—	—	
昭和34年6月25日	第432号	2	学生運動を再考する 不足してる日常活動 結集したいクラスのエネルギー 学生運動は本来幅の広いもの 全学生の意識に立った「転換」か どうする指導者とのギャップ 必要な学生層の意識の把握 物好きで学生運動をしていない	—	
昭和34年6月25日	第432号	3	科学 科学は制御できるか 個人の立場で技術操作を	大森恭輔	九州大学農学部教授
昭和34年6月25日	第432号	3	るうぺ 円と数学	金原誠	九州大学工学部教授
昭和34年6月25日	第432号	3	涙が出た「旧友」の演奏 九大オケ輝く五十年の伝統	鳥山隆三	九州大学理学部教授・音楽部長
昭和34年6月25日	第432号	3	松原賞入選は「難渋」 小説十六篇が応募 応募作品 感想	中村節生	
昭和34年6月25日	第432号	3	選評 対象化されてない幸福論	谷川雁	詩人
昭和34年6月25日	第432号	4	第二回松原賞小説入選作 難渋	中村節生	
昭和34年6月25日	第432号	5	爆音 三たび「爆音問題」を採り上げる 九大は上昇路直下 軽視できぬ疲労度 九大における爆音に対する運動は十年を数える 爆音の被害は単に音の被害だけに止まらない 防音設備はあっても換気装置がなければ用をなさない 爆音問題の解決は基地の撤退なくしてはありえない	弗	
昭和34年6月25日	第432号	5	二十六日から全学新大会	—	
昭和34年6月25日	第432号	5	松原風土記(2) この水晶、日本一 地質学教室	—	
昭和34年6月25日	第432号	5	沖縄における法体系 全てを規制する米国法令制定にも高等弁務官が介入 一、民政府法令 二、琉球政府法令 三、旧群島政府法令 四、日本旧法	赤嶺義信	琉球大学助教授

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年6月25日	第432号	6	推薦に宮内浩氏 九大をうつす会 入賞きまる	—	
昭和34年6月25日	第432号	6	期待以上の成果 学生の参加増えた学園祭	—	
昭和34年6月25日	第432号	6	学内誌評1 文芸同好会と「壇」	I	
昭和34年6月25日	第432号	6	松原風土記(3) 鯨の墓標 箱崎浦	—	
昭和34年6月25日	第432号	6	本学に原子力図書 米大使館から	—	
昭和34年6月25日	第432号	6	戦後の歌ごえ運動 民主化の発展と共に	今井克典	
昭和34年6月25日	第432号	6	根本的な努力に欠ける 六大学美術展評	潮	
昭和34年7月10日	第433号	1	学術探検隊カリマントンへ 隊長に細川教授(理) 今年は一行六人で予備調査 インドネシアの現地学者と協同研究 植物学関係 動物学関係 人類学関係 地質学関係 環境医療学関係 細川隆英隊長(50歳) 種子田定勝隊長(42歳) 吉田禎吾隊員(36歳) 永井昌文隊員(35歳) 河端政一隊員(36歳) 緒方道彦(33歳)	—	
昭和34年7月10日	第433号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和34年7月10日	第433号	1	安保闘争の中から実現を 日中国交回復の方向	三好一	日本中国友好協会 本部常任理事
昭和34年7月10日	第433号	1	六・二五にストライキを決議 教養部学生大会開かる	—	
昭和34年7月10日	第433号	1	論説 帰郷活動を積極的に	—	
昭和34年7月10日	第433号	1	論説 スト処分に反対する	—	
昭和34年7月10日	第433号	1	学友会中心に 今年の帰郷活動	—	
昭和34年7月10日	第433号	1	委員長に森本君(法三) 法学部 自治委選終る	—	
昭和34年7月10日	第433号	1	五大学 二五〇〇名が参加 六・二五全国統一行動	—	
昭和34年7月10日	第433号	1	開学五十周年記念準備会発足	—	
昭和34年7月10日	第433号	2	ルポ・教養部のスト 高い意識・静かな説得 炎天下の拡張集會に千五百 定型化を破るスト 広く深い講義 欲しい教官との連絡の場 長い蓄積の結果の行動	T	
昭和34年7月10日	第433号	2	解説 学生を無視する処分問題 民主的ルールにのった学生の行動	—	
昭和34年7月10日	第433号	2	盛大だった六大学合同演奏会 各大学のエール交歓	—	
昭和34年7月10日	第433号	2	階級—革命政党としての議會活動—九大 階級理論で把握できぬ社会—法大 全国政治ゼミに参加して はじめに 民主主義の危機 危機克服の方向	秦明夫	法学部四年
昭和34年7月10日	第433号	2	投書 理解せよ“階級的視点”	八丁和生	法学部四年・九学 連前書記長
昭和34年7月10日	第433号	2	るうぺ 農薬被害の原因	大島康義	九州大学農学部教授
昭和34年7月10日	第433号	2	“九大海の家” 来夏までに誕生	—	
昭和34年7月10日	第433号	2	教養部行事予定	—	
昭和34年7月10日	第433号	2	訂正	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年9月10日	第434号	1	全世界へ広島アピール 第5回原水爆禁止世界大会終る “行動で人道的立場守れ” 広島に集った一万人の代表	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	理農学部自治会再建へ	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	九・一八に安保抗議集会 九学連自治代で決まる	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	県学連結成さる	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	工学部、理学部で新・増築	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	第一回九州地区国立大学卓球	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	全九州学生卓球選手権試合	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	盲点	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	戦争阻止に平和勢力の結集を 原水爆禁止運動の原則、目標と共同行動に関する国際勧告(要旨) 原則 目標 国際的共同行動	—	
昭和34年9月10日	第434号	1	ヒロシマ・アピール 全文	—	
昭和34年9月10日	第434号	2	論説 平和への道を歩むために —安保改定に反対する—	—	
昭和34年9月10日	第434号	2	松川判決をめぐって 疑問のおおい多数意見 いわゆる松川判決の解釈 誤認の“疑”で破棄 差戻しできるのか “もう一度調べよ”の善意はわかるが 土俵の外にはみ出した多数意見	井上正治	九州大学法学部教授
昭和34年9月10日	第434号	2	松川判決をめぐって 二様にとれる松川判決 上告審と事実誤認について	吉村徳重	九州大学法学部助教授
昭和34年9月10日	第434号	2	松川事件をめぐって 説得力不足ゆえの批判 大衆運動は世論の現われ	井上祐司	九州大学法学部助教授
昭和34年9月10日	第434号	3	ノイローゼを追放しよう かなり多い精神分裂症 入学後の虚脱や過労から 入学後二、三カ月に多い 幻聴で女子学生轢死 早期発見は90%なおる 対策にカウンセラー制度採用か	—	
昭和34年9月10日	第434号	3	解説 『人類の悲願』から政治へ 熱心に原爆禍を説く科学者	川	
昭和34年9月10日	第434号	3	私の歩いた道(4) マルクスシズムに興味	向坂逸郎	九州大学経済学部教授
昭和34年9月10日	第434号	3	国鉄学割値上げ計画 全学連 九学連反対に立上る	—	
昭和34年9月10日	第434号	3	るうぺ 飛行機のスピード	岩崎松之助	九州大学工学部助教授
昭和34年9月10日	第434号	3	計画性が乏しい帰郷活動 志免、福教祖との共闘に成果	—	学友会中央執行委員会
昭和34年9月10日	第434号	3	厚生補導専門職員研修センター中止 内容は大学版道徳講習	—	
昭和34年9月10日	第434号	3	学術探検隊出発す 帰国は十一月 ボルネオを総合調査	—	
昭和34年9月10日	第434号	3	ソアラ式グライダーで九州一周	—	
昭和34年9月10日	第434号	4	新入生の悩みをさぐる 学生部の調査から 強いスポーツ趣味へのあこがれ 政治や政治家への不満も 内よりも外に強い関心 旅行・登山・ダンスもやりたい おとなしい九大生の性格	川	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年9月10日	第434号	4	学部別求人状況 文学部 法学部 工学部 経済学部 教育学部 農学部 理学科(マ) 薬学部	—	
昭和34年9月10日	第434号	4	夏季インカレ 九大三種目に優勝	—	
昭和34年9月10日	第434号	4	国立七大学バスケット競技	—	
昭和34年9月10日	第434号	4	南日本レガツタ	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	1	デモの学生六人捕まる 九・一八安保改定反対行動デー 計画的な警官隊の行動	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	1	論説 学生運動を弾圧する警察	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	1	教養部教授会で再審議 六・二五スト 評議員会で否決	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	1	司法試験第二次合格者	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	1	六級職合格者	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	1	九大人事 [出張]	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	1	図書館“ただ今貸出し中止” 未返却で整理つかず	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	1	盲点	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	2	デモ取締りに乱用の危険も 道路交通取締法というもの 法令自体が違憲とはいえぬ 取締りの認定は現場の警官に 運用には十分な世論の監視を	手島孝	九州大学法学部助教授
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	2	逮捕された学生の手記 公務執行という名の暴力	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	2	ボタかけにあえぐ人々	[編集部]	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	2	ボタかけにあえぐ人々 「合理化」でつぶされる小ヤマ 一日二食・ザリガニも食べる ルポ 室井豊徳炭鉱 あこがれの的 ニコヨン 病棟にもひとしい長屋 雑魚を売るニコヨン市 生きるためには盗みも 組織が唯一の防波堤 給食は子供たちの夢だったが “俺たちは奴隷のごたる	正	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	2	山田学長が優勝 全国ベテラン庭球大会で	—	
昭和34年10月10日臨時増刊	第435号	2	六大学野球リーグ 十日に開幕	—	
昭和34年10月25日	第436号	1	安保改定最終段階へ 日ましに高まる反対運動 改定の本質は軍事同盟 全国に広がる共闘組織	—	
昭和34年10月25日	第436号	1	農学部の紅二点 本年度の進学二〇二二名	—	
昭和34年10月25日	第436号	1	“自衛隊！”は幻影 鼻をつく死臭 名大新聞 河邑記者 ルポ	—	
昭和34年10月25日	第436号	1	10. 30に全国的なスト 全学連の第九次行動	—	
昭和34年10月25日	第436号	1	私の歩いた道(5) 第二の人生	向坂逸郎	九州大学経済学部教授
昭和34年10月25日	第436号	1	経済学部で大学院進学試験	—	
昭和34年10月25日	第436号	1	懸賞論文『日本とアジア』	—	
昭和34年10月25日	第436号	1	盲点	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年10月25日	第436号	1	社会科学を志す君へ 常になぜかという問を 大きな潮流を見失うな	小林栄三郎	九州大学文学部教授
昭和34年10月25日	第436号	1	自然科学を志す君へ 欲しい活力ある知識 創造的思考の訓練を	坂井渡	九州大学工学部教授
昭和34年10月25日	第436号	2	論説 安保条約を廃棄させること ーわれらのなすべきことー	—	
昭和34年10月25日	第436号	2	ボタかけにあえぐ人々(2) 慈善運動ではない 『黒い羽根』 助け合いから世論を起そう 現実批判のない運動は無益 政治の貧困の象徴 『黒い羽根』 くさいものにふたの保守側 必要な政府の根本的な対策 慈悲のパンより安定した職業を生活を守る強い組織統一が急務	正	
昭和34年10月25日	第436号	2	『セスク』ボルネオ調査を断念 来月中旬に全員帰国	—	
昭和34年10月25日	第436号	2	九文連祭を開催 十一日に福岡で	—	
昭和34年10月25日	第436号	2	第七回九文連祭を開催	—	
昭和34年10月25日	第436号	3	教養課程の問題をさぐる 文科系は自由放任 専門教育でしられる理科学	ドル	
昭和34年10月25日	第436号	3	海のドライブを楽しむ 第一回女子学生クルージング	—	
昭和34年10月25日	第436号	3	るうぺ 冶金『冶』の字	佐藤尚	九州大学工学部教授
昭和34年10月25日	第436号	3	法・経過半数が内定 全員内定した“機械”“応化”就職 経済学部 文学部 教育学部 法学工学部 理学部 農学部 薬学科	—	
昭和34年10月25日	第436号	3	難問！解答は さて？ 今年度入社試験問題から	—	
昭和34年10月25日	第436号	4	アフリカ 火口内で生活した一カ月 ニーラゴンゴ調査に参加して 世界でただ一つの溶岩湖 火口内にテントを張る 研究し易い日本の火山	下鶴大輔	九州大学理学部助教
昭和34年10月25日	第436号	4	大野城跡に科学のメス 鑑山教授ら朝鮮式山城を調査	—	
昭和34年10月25日	第436号	4	九州の空を飛んで 朝日に輝く大村湾 悠々と眺める“下界” 空の女神グライダー 美しい“雲仙” 寝返えりのおまけ 空を愛する	—	
昭和34年10月25日	第436号	4	現代に生きる音楽の悩み(1) “マイスタージンガー”の発展 ー中世音楽の巻ー 一、封建時代の音楽	今井直典	福労音楽事務局局長
昭和34年11月15日	第437号	1	安保改定阻止へ結集 10.30全国統一行動 拡がる学生の反対運動 福岡では千二百名が集まる	—	
昭和34年11月15日	第437号	1	階級政党への脱皮 課題は統一戦線に	嶋(ママ)崎讓	九州大学法学部助教
昭和34年11月15日	第437号	1	私の歩いた道(6) ある作家の夢	向坂逸郎	九州大学経済学部教授
昭和34年11月15日	第437号	1	全学抗議集会開く 安保反対警職法以来の結集	—	
昭和34年11月15日	第437号	1	冬季インカレ始る 九大が当番校で	—	
昭和34年11月15日	第437号	1	岡崎理学部長	—	
昭和34年11月15日	第437号	1	第二回体育祭を開催 学部別対抗で	—	
昭和34年11月15日	第437号	1	中山三段(九大)が優勝 九州学生柔道選手権	—	
昭和34年11月15日	第437号	1	自動車部『JMCラリー』に優勝	—	

発行年月日	号数	頁	記事タイトル	執筆者及座談会参加者氏名	身分
昭和34年11月15日	第437号	1	寺岡(九大)シングルスで優勝	—	
昭和34年11月15日	第437号	1	マンドリンクラブ演奏会 十二月二日、電気ホール	—	
昭和34年11月15日	第437号	1	盲点	—	
昭和34年11月15日	第437号	2	論説 政治と結んだ教育白書	—	
昭和34年11月15日	第437号	2	ルポ ヤマで闘う人々(1) 三井三池炭鉱 最高度の組織を持つ 職場闘争と学習活動が武器 二千人の解雇要求 十年余の学習活動 職場闘争を基本に 英雄なき113闘争 敗北の中から結成 闘争支える炭婦協 “資本論”読む主婦も “生活守る”で団結 熱心な学習活動 三作所支部が脱退 激しい会社側の干渉 独立デモを行う 連帯意識に欠けた 安保改定への姿勢	正、山、哲	
昭和34年11月15日	第437号	2	フ首相訪問と米の反応 冷淡と好感と 指導層と大衆にブレ 全米の関心さらう 冷淡だった政・財界 マス・コミの大宣伝 大衆の自覚高まる 知識層の反応は？	谷川栄彦	九州大学法学部助教授
昭和34年11月15日	第437号	3	領空の限界に問題 国連の討議も片手落ち 伊藤教授に聞く	—	
昭和34年11月15日	第437号	3	教養課程の問題点2 少ない語学の時間教 教官不足が増強への壁 教官不足は慢性 教官増強が急務 生きた語学を サークルの重要性	Y	
昭和34年11月15日	第437号	3	法・経八割が内定 足ぶみ状態文教 就職 法 経済 文学 教育 工学部 農学 理学 薬学	—	
昭和34年11月15日	第437号	3	留学生寮の問題点 敬遠される高い寮費 十三名 定員にわずか三名	—	
昭和34年11月15日	第437号	3	るうべ 電子翻訳機と人間	田町常夫	九州大学工学部助教授
昭和34年11月15日	第437号	3	九大、単複に優勝 全九州学生庭球新人戦	—	
昭和34年11月15日	第437号	3	九大、惜しくも二位 九州六大学秋季リーグ	—	
昭和34年11月15日	第437号	3	犬飼教授の講演会	—	
昭和34年11月15日	第437号	3	九学新大会、佐賀で	—	
昭和34年11月15日	第437号	3	九大人事 [異動] [出張]	—	
昭和34年11月15日	第437号	4	新しい社会の建設に 巨大なエネルギーの息吹き 新中国 人民公社を訪ねて 高級合作社以上の人民公社 国営農場と違うその所有制 三級所有制は後退ではない	青山道夫	九州大学法学部教授
昭和34年11月15日	第437号	4	これからの人1 合化の新進学者 酵素から生命の神秘にもメス 村上幸人	—	
昭和34年11月15日	第437号	4	現代にも生きる音楽の歩み(2) イタリアオペラの発展 —不滅の十八世紀音楽—	今井克典	福労音楽事務局長
昭和34年11月15日	第437号	4	書評 「日本文芸史における無常観の克服」井手恒雄著 無常観の通説を批判	西尾陽太郎	九州大学教養部教授
昭和34年11月15日	第437号	4	初めて部報を発行 学友会バイト部	—	
昭和34年11月15日	第437号	4	心理相談所を新設 毎週三日間、教養部で	—	
昭和34年11月15日	第437号	4	化学教室を新築 教養部	—	
昭和34年12月15日	第438号	1	九大人事 [異動] [出張]	—	